

多種多様、淡水魚たちの生態と生活史 淀川水系魚類名鑑

希少野生動植物保存推進員
横山 達也

シマドジョウ

Cobitis biwae

シマドジョウは、コイ目ドジョウ科の仲間の日本固有の底生性の淡水魚です。山口県西部と四国南西部を除く日本各地に分布。水の清澄な湖沼や池、河川の中流域を中心に、地域によっては上流から下流域にまで広く生息しています。ですが、絶滅が危惧されるほど、生息数が減ってきている水域もあります。



派手な模様が
ひときわ目立つ



流れが緩やかな砂底や砂礫底の場所を好み、イトミミズやユスリカなどの動物性の餌やデトリタス、付着藻類などを食べる雑食性です。口には6本のヒゲをもち、体側には、円形や楕円形の黒色斑紋が縦に並んでみられますが、その大きさや形状などの斑紋のタイプは様々です。近年の研究で、従来のシマドジョウとされていたものが4種に細分されました。

バラエティに富んだ体側の美しい斑紋がみられることから、観賞用として人気が高く、あまり食用にはされてはいません。驚いた時などに、砂の中へ潜りこむ行動など、飼育すると様々な面白い行動がみられますので、ぜひ水槽で飼育してみてください。

under the water

the waterside

花想鳥感

四季折々、
水辺の生物多様性

高槻市立自然博物館 主任学芸員
高田 みちよ

渡るタカ サシバ

「鷹柱（たかばしら）」という言葉をご存じでしょうか。秋の季語にもなっているこの言葉は、日本で繁殖したサシバやハチクマなどのタカが、秋に南へ渡る時の飛び方を表現したものです。タカは上昇気流を利用して旋回上昇し、飛翔高度を高くしてから滑空していきます。滑空しながら少しずつ高度を下げ、また上昇気流を見つけて再び旋回し、高度を上げていきます。地上からの上昇気流は山の斜面で発生するため、それを利用するタカたちが集まってきて、多数のタカがクルクルと旋回している様子が柱のように見えるのです。多い時は数十～数百のタカが集まってきます。

9月～10月、大阪の上空を多数のタカが通過していきます。多くは北摂山系の上昇気流を利用しており、淀川沿いに西へ滑空していく姿を観察することもあります。2014年秋の渡りでは、高槻市北部の萩谷総合公園での観測で7762羽のタカがカウントされました。萩谷での調査結果によると9月上旬はハチクマ、下旬はサシバ、10月に入るとノスリの数がピークに達します。このカウント調査は全国的にボランティアによって毎年行われ、調査結果が蓄積されています。みなさんも良く晴れた秋の空を見上げてみてください。西へ一直線に滑空するタカの姿が見られるかもしれません。



大空を悠然と舞うサシバは
とてもカッコいい

写真提供 / 池田哲哉



★参考 タカの渡り全国ネットワーク
<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>

the sky & land

水辺の

虫眼鏡

川に棲む水生生物の魅力的な生態

環境省 環境カウンセラー 川島 大助

イシビルの仲間

ヒルといえば、人の血を吸う(=チスイビル)イメージをもつ方も多いと思います。淀川でも川底の石を裏返してみると石に吸着するヒルをよく見かけますが、そのほとんどは人には直接害のない(=血を吸わない)イシビルの仲間のシマイシビルです。

本種は、雌雄胴体で、体色は茶~灰褐色、背面に黒色の縞があり、大きさは5cm程度です。河川や水路などのやや汚濁した水域に棲んでおり、「水質階級III きたない水」の指標種でもあります。また、水がなくなると川底に潜って生きることでもできます。肉食性で魚類など大型生物の死骸や水生昆虫、イトミミズ類などを捕食することなどから、本種はバランスのとれた生態系を維持していく上で、生息を考慮する必要がある種ともいわれています。

淀川では本流やワンドの川底の石の裏を観察してみると、石に着いたイシビルを容易に見つけることができます。人の血を吸うことはありません。魚類等の死骸を食べてくれる川の掃除屋、イシビルの仲間をぜひ観察してみてください！

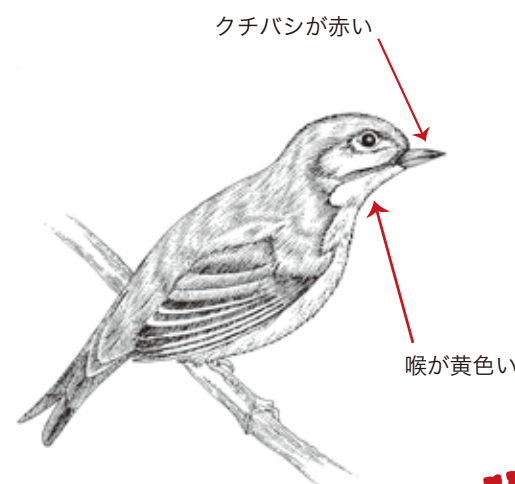


手の平にのせると這い回るが
水の中に戻すと体をくねらせて上手に泳ぐ

the worst 100

侵略的外来生物

淀川ワースト100



クチバシが赤い

喉が黄色い

AN INVADER

チメドリ科 ソウシチョウ
Leiothrix lutea

淀川管内河川レンジャー 石山 郁慧



全長約15cm。スズメより少し大きい。オスとメスで、大きさや羽色にほとんど違いはない。美しい姿や鳴き声を鑑賞するために、江戸時代頃からペットとして輸入・飼育されてきたと言われている。化粧品の「うぐいすの粉」の代用品として利用するため、大量飼育されていた事例もあるようだ。だが、鳴き声が大いという欠点がありペットとしての人気は降下。ペットとして飼っていたものが逃げたり、特定外来生物指定後に業者が逃がしたものが野外に定着。藪の中で営巣するメジロ、コマドリ、コルリ、ウグイスなど外来鳥類に影響を与える。最近では、北摂地域でもよく目撃されているそう。



一度見たら記憶に残る
緑に映える美しい彩り
その可愛らしさこそ罪である

写真提供 / 池田哲哉